

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：異文化理解 英語表記：Cross-cultural Understanding ナンバリング：1021		単位数：2単位 (半期) 演習	担当教員名：金美珍、 鈴木一代 担当形態：オムニバス
科目/系列	/教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 異文化を理解する重要性を認識できる。 2. 日本文化（自文化）と異文化の共通点と相違点を認識し、理解ができる。 3. 日本文化（自文化）を発信するための知識や考え方、技法を習得できる。 4. 文化の多様性を理解し、他文化の受容への積極的取り組みができる。			
【授業の概要】 この授業では、アジア（主に韓国）の文化をとりあげ、日本の文化と比較することにより異文化理解についての基礎知識や態度を学ぶ。また、異なる文化の理解を通して日本文化（自文化）をさらに深く理解する。これにより異文化理解への基礎知識や態度を学ぶとともに、自文化をいっそう深く理解し、異文化に対する理解と共に自文化の再発見を試みる。 なお、希望者は、連携協定を締結している韓国の大学や幼児教育機関等への交流を目的とする海外研修に優先的に参加することができる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：文化とは、異文化とはなにか、自文化とはなにか 第3回：韓国の国土、地理、天候 第4回：韓国の歴史と文化 第5回：韓国の食文化 第6回：韓国の家族関係 第7回：韓国の教育 第8回：韓国の子どもの遊び 第9回：韓国の日常生活 第10回：韓国の宗教 第11回：韓国の恋愛事情・結婚式の風習 第12回：他国と日本の違いについて① 第13回：他国と日本の違いについて②		【授業時間外の学習】 (毎回60～90分) 日常生活のなかで、テレビや新聞記事・Webサイトなどを通して、異なる文化的背景をもつ人々や子どもたちへの理解を深める。授業内容の理解やオンライン交流での意見交換に必要である。 Webサイトや書籍などで各自が興味をもつ国の文化、歴史、教育、言語などについて積極的に調べる。それを基に発言することで、グループワークが成立する。 ※海外研修では、自文化の誇りと他文化への尊敬の気持ちを持って接することが重要で	

<p>第14回：韓国以外の国の文化について知る① 第15回：韓国以外の国の文化について知る② 定期試験：なし</p>	<p>ある。そのため、事前に、日本の伝統文化（茶道や舞踊など）の練習をする。</p>
<p>【授業の方法】 講義、グループワークを実施しフィードバックを行う。可能ならば海外研修旅行を実施する。</p>	
<p>【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 オリエンテーションの際、授業中に適宜紹介する。</p>	
<p>【学生に対する評価】 学びへの取り組み（授業参画度）を50%、学習成果を共有する発表を30%、そして学びの集大成となる最終レポートを20%として、総合的に判断する。到達目標に対する達成度は、明確な評価基準（ルーブリック）に基づいて判定する。</p>	
<p>【履修上の注意】 海外研修旅行への参加には、費用が発生するため、保護者の理解と了承が必要である。 詳細はオリエンテーションあるいは授業中に説明する。海外研修旅行実施については、保護者説明会を開催する。</p>	
<p>実務経験の有無：無</p>	<p>実務経験：</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】</p>	